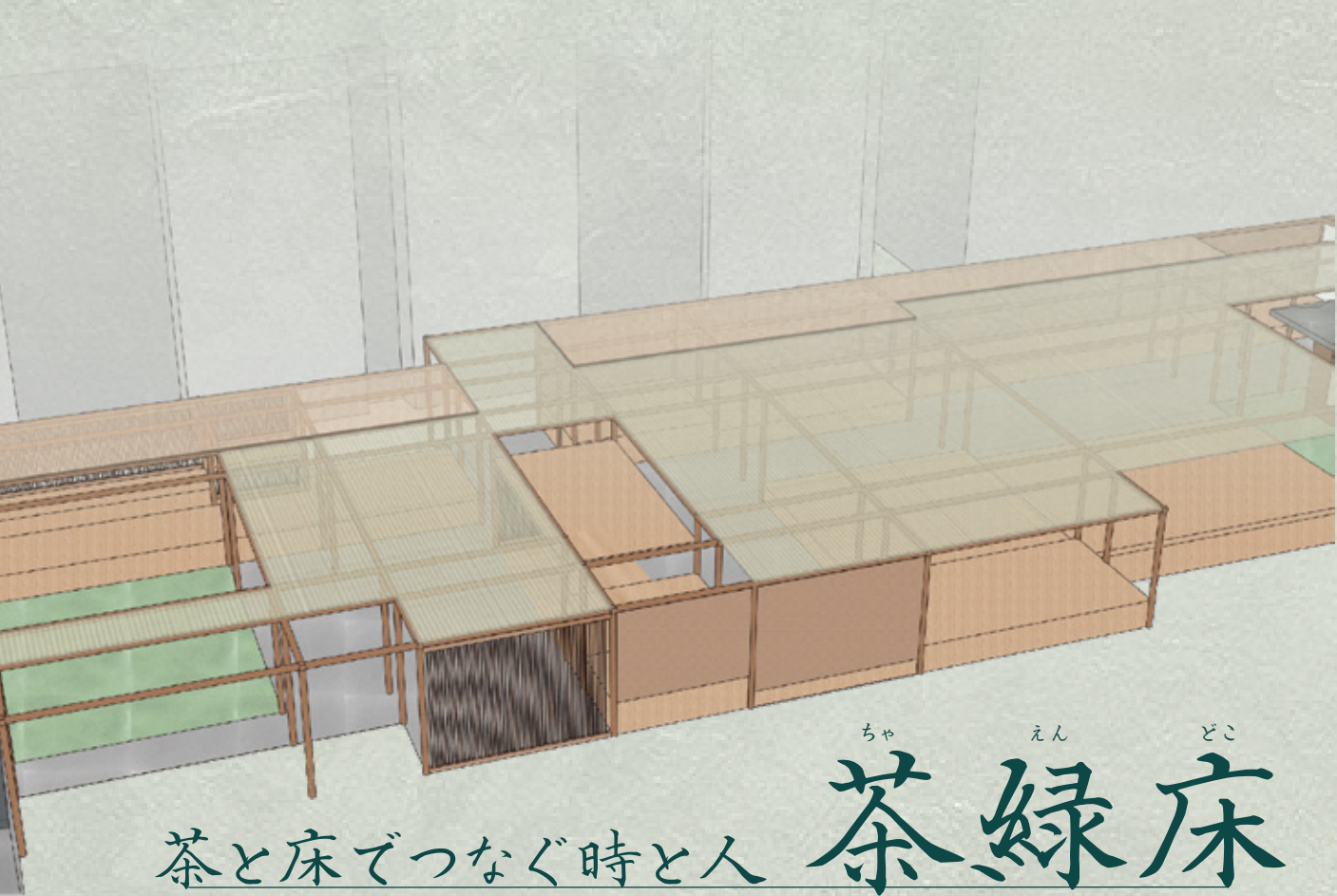




配置図兼平面図 A-A' 断面図 南西側立面図 北西側立面図

宇治の駐車場化した土地を公共的な滞留空間に転換

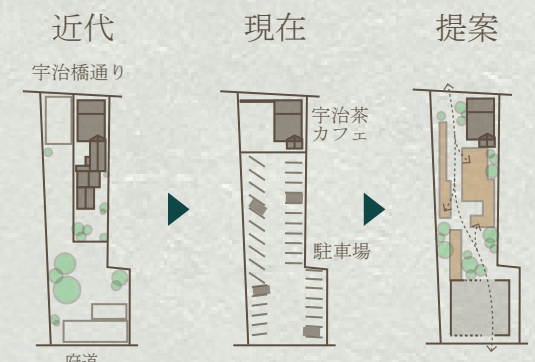
対象地

宇治は平安時代の別業の地から始まり茶の生産地へと発展してきた。宇治の歴史や文化は、街区や道路、町家類型に至るまで都市空間と密接に結びついている。その一方で、不整形な土地の過剰な駐車場化、市の観光拠点の分散や立地不便といった課題が指摘できる。



提案

近代まで茶問屋であり現在茶店にリノベーションされている町家と、隣接する駐車場化した土地を対象として、滞留空間の創出を目的とした文化発信、観光拠点を兼ねる「宇治観光センター新館」を提案する。



茶業が時代と人をつなぐ空間を創出

設計主旨

利用者の少ない駐車場を有効活用し、分散している観光拠点機能を集約することで、公共的な滞留空間の提供と歴史文化の発信拠点の創出を実現。

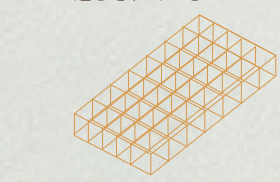
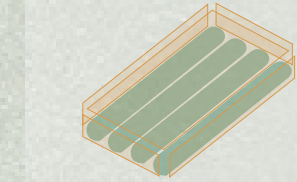
かつて茶問屋として製茶を行っていた町家のウラを宇治特有の「覆下栽培」をモチーフとした憩いの空間に。



▲よしず、わらを利用した栽培の様子



▲収穫の様子 / 木材の柱や梁が透らされている



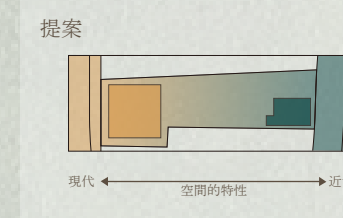
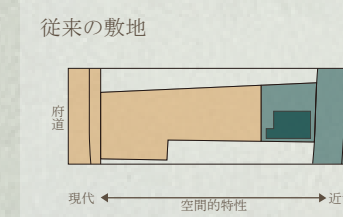
引用: <https://www.city.uji.kyoto.jp/site/uji-cha/16203.html>

町家の空間配置を継承する立体床空間

設計手法

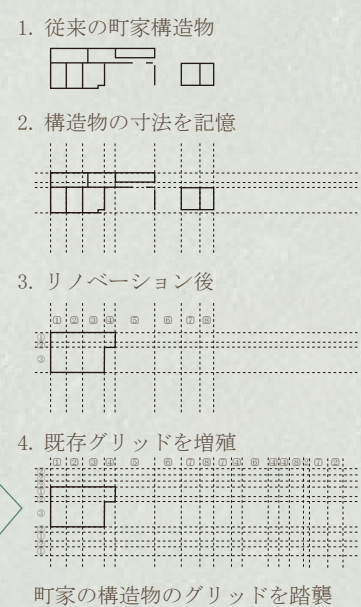
町家の寸法を延長して空間を区切り木の床を配置することで、町家本来の尺度を現代に生かし人々に親しみのある居場所を生み出す。

近世と現代の対比

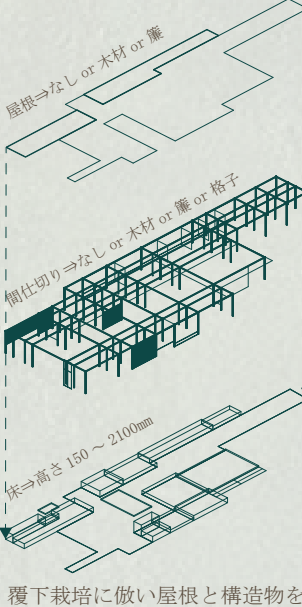


近世に通された宇治橋通りと伝統的な町家
⇔ 現代的な土地利用がされる府道とRC造の現代建築の対比
二つの時代と人をゆるやかにつなぐ

町家グリッドの拡張



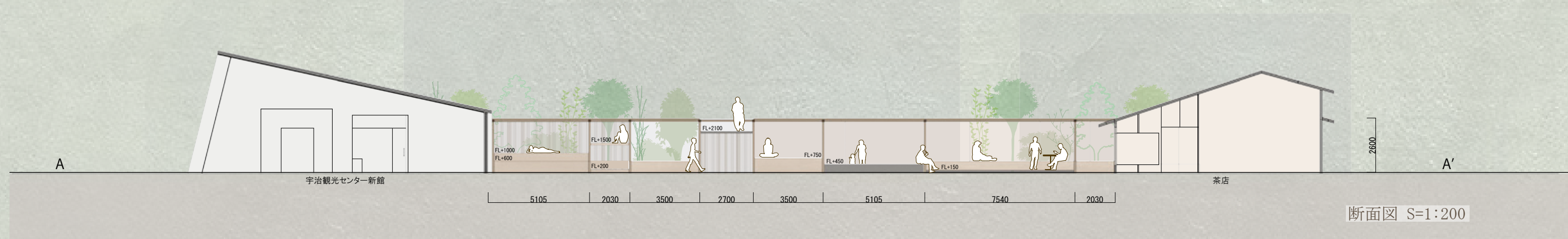
躯体レイヤー



異なる床、間仕切り、天井が生む異なる「居方」



配置図兼平面図 S=1:200



断面図 S=1:200



南西側立面図 S=1:200

北西側立面図 S=1:200